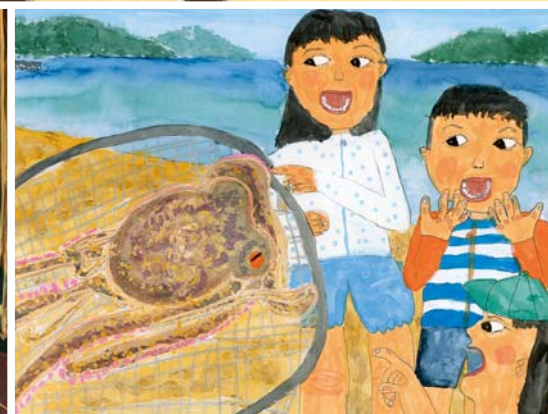
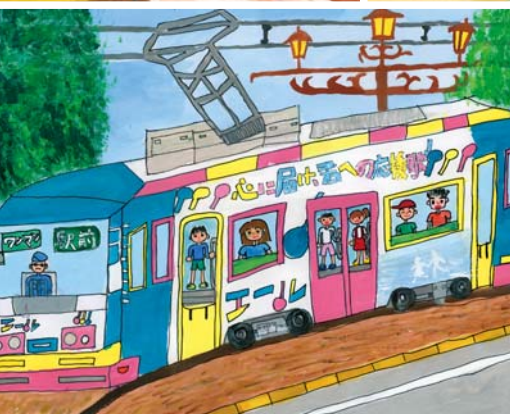
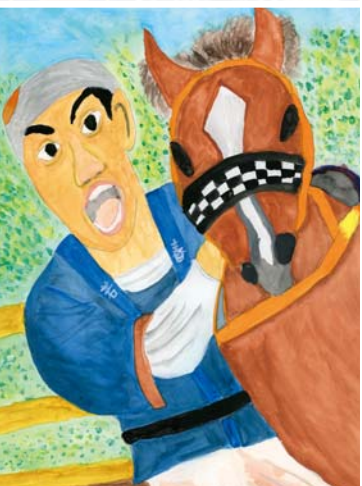


教育と文化

No.124

令和2年11月



Contents

- | | |
|-----------------------|-----------------|
| 2 巻頭言 | 10 特色ある教育活動 |
| 4 三河の文化を訪ねて | 11 令和2年度個人研究助成 |
| 6 特集 研究助成団体の紹介 | 15 研究成果論文提出者の紹介 |
| 8 刊行物の活用紹介 | 16 文振だより |
| 9 教室の窓辺 | |

令和2年度「みかわ彩発見絵画コンクール (春・夏の部)」最優秀作品受賞者

- | | | | |
|----|--------|-------|--------|
| 1年 | 豊橋・鷹丘小 | 鈴木 香澄 | (上段左上) |
| 2年 | 刈谷・双葉小 | 近藤 佳歩 | (下段右) |
| 3年 | 高浜・高浜小 | 杉浦 怜花 | (上段右) |
| 4年 | 豊橋・旭小 | 竹内 鴻平 | (下段左) |
| 5年 | 高浜・吉浜小 | 小原 蒼人 | (上段左下) |
| 6年 | 豊橋・天伯小 | 平 夏樹 | (下段中) |



巻頭言

「英語の学習」発刊への挑戦

— 役に立つ刊行物を作る —

公益財団法人愛知教育文化振興会常務理事 河合 智仁

新規刊行物「英語の学習」の採用率が98%を超えた。三河の殆どの小学校に採用していただいたことになる。「英語の学習」のよさやその必要性を認め、支持していただいた小学校及び教育委員会の先生方に感謝したい。更に、「英語の学習」の刊行に向けた準備をはじめ、採用に向けた普及宣伝活動に至るまでご尽力いただいた三河教育研究会及び三河小中学校長会の先生方には、心からのお礼を申し上げたい。

この刊行物の企画当初から担当をしてきた私にとっては、編集委員の皆さんとのことが忘れられない。「これから始まる小学校の英語教育に少しでも力になりたい」、「三河の先生方にずっと使っていただける、役に立つものを作らなければならぬ」といった言葉に象徴される、真摯な思いが、私の胸に深く印象づいている。

始まりは、4年前、平成28年の秋であった。

「小学校英語の教科化に伴い、副教材等の必要性を感じている。特に、子どもたちの学び、授業の進め方、評価・評定を支える副教材は必要になるだろう。学校現場での小学校英語に関する学習及び意識の盛り上げが必要である。併せて、学校現場におけるニーズも把握していく必要がある。小学校英語開始へのスムーズな取り組みができるような方策を考えていきたい。」

三教研英語部会長のこの言葉が発端だった。三河地域の小学校英語に関わる学習資料作りがスタートした。

昨年度、「英語の学習」の編集委員として熱心に取り組んでいた先生方から寄せられた声の一部を紹介したい。

- ・子どもたちの理解の度合いを測ることができ、指導者の評価に役に立つ問題を作成することは難しい作業だった。教科書を何度も読み返し苦勞して作り上げた問題案をグループの先生方に検討していただき、よりよい問題へと作り上げていく過程において、多くの助言をいただき、とても勉強になった。
- ・編集委員会で、他地区の先生方と知り合えたことは財産だ。これからの小学校英語をどうしていくべきか共に考える良い機会となった。

これらの声を聴くなかで、思い起こしたことがある。私は、30年ほど前に「理科の学習」の編集委員をしていた。教科書はもちろん、様々な資料を読み漁り、七転八倒、苦しみながら問題を作成した。当時、市の指導員であった私にとって、問題作りの過程で知り得た情報は宝であった。多様な教材教具、目標への迫り方をはじめ、理科授業の作り方等々、勉強になったことが山ほどあった。そのことは、現在編集に携わっている編集委員も変わらないと思う。今後も、編集委員会の場が先生方のよき研修の場となるよう願っている。

愛知教育文化振興会は、毎年、刊行物のモニターを実施している。実際に使用した感想や意見を積極的に取り入れ、学校現場のニーズをもとに



翌、平成29年に「小学校英語学習資料検討委員会」が三教研英語部会に属する会議として誕生した。まずは、三河の先生方の声を聴くことである。すぐに、小学校英語の教科化に向けた三河の小学校の準備状況及び必要な学習資料の実態アンケートを実施した。その集約結果から見えてきたことは、「指導者の評価に役に立つ学習資料」の作成である。検討に検討を重ねた結果、この方向性に絞られたのである。

平成30年になると、前年の検討委員会の成果を踏まえ、本振興会の編集委員会の一つとして、「(仮)小学校英語」を設置した。ここでは、学習資料についての調査研究とサンプルの作成に取り組んだ。具体的には、当時多くの学校で使用していた文部科学省『新学習指導要領対応小学校外国語教材 We can!』に準拠したものにすることを考えた。4技能の内の「聞く」・「書く」を中心とした、評価の手助けとなる単元まとめのテストを作ることである。

毎年改訂作業を続けている。これも本振興会の刊行物の大きな特色であり長所である。「英語の学習」も編集の時点で考え得る最良のものを作り上げていただいた。しかし、実際に学校現場で使っていたいただいた意見等をもとに今後も手を加え、さらに良い刊行物へと改訂を推し進めていきたいと考えている。三教研の各部会及び各支部から選ばれた先生方が作った刊行物を、全三河の先生方の手で、三河の子どもたちの学びを支え、そして、三河の先生方のより役に立つものへと育てていただきたいと願っている。

本年、コロナ禍の大変な中、感染予防に配慮しつつ、編集委員会のもち方、内容等に工夫を凝らしながら編集作業に取り組んでいた。今後とも学校や教育委員会など、三河の先生方のご理解とご支援をよろしくお願いしたい。



サンプルができあがると、三河の小学校の40校ほどにモニターを依頼した。現場の先生方の意見を反映したよりよいものに磨き上げるためである。

令和元年。名称を、「英語の学習」編集委員会と改め、本格的な編集に着手した。土台となるのは、前年度に現場の先生方からの声を取り入れて作り上げてきたサンプルである。

編集委員会は、新教科書の見本本の使用が可能となる9月中旬を待って、急ピッチで進められた。校了までに正味3か月の期間しかない。編集作業は、予定の時間を超えて長時間になることもあった。しかし、編集委員のモチベーションは衰えることなく、熱心に取り組んでいた。ここで、折角作るのだから、三河の先生方の役に立つものにしたという思いが伝わってきた。

教科書に準拠し、評価に適した問題であること、CDによる音声資料があること、親しみがもて、楽しく取り組みやすい紙面構成であること等々の観点に従って編集は進められた。

さらに、新しい評価の観念のアイコンを作ったかどうか、復習に役立つようにQRコードをつけてはどうかとのアイデアも付け加えられた。家庭でも簡単にリスニング問題を再生できる、新たな特色ある刊行物「英語の学習」ができ上がったのである。また、印刷会社の協力を得て、頒価も290円に抑えることができた。

こうして三河地区採択の教科書に準拠した、リスニング音声CD付き、B4判両面カラー刷りの「英語の学習」は誕生した。

国指定重要無形民俗文化財

設楽の里に神が舞う

花祭り

東栄町立東栄中学校長 岡田 守

(中設楽花祭り保存会長・花太夫)

榊葉に しで取り掛けて 拝むこそ

萬の神が 受けてよろこぶ

北設楽郡内15地区に鎌倉時代から伝わる花祭り。夜を徹し、子どもが、青年が、そして神の化身が民衆とともに舞い踊る。地域の人々の心のつながりの源にもなる貴重な祭りである。



猿田彦命(櫛鬼)：宇豆女との問答

神事に始まり 神事に終わる

舞が中心の花祭りであるが、すべては神事に始まり、神事に終わる。舞以外にも多くの神事が行われる。神事一切を司るのは「花太夫」である。

祭りは厳密には5日間(木曜から月曜まで)で行われる。舞を奉納するのは、土曜の夜から日曜の夕方までであるが、前後は次のような神事が行われる。

(1) 切草

祭り最初の神事で、木曜の夕方に行われる。舞庭を飾る湯蓋や神道、幣束、ぜざちなどを作るための紙、竹、剣(出刃)を祭り、願をかける。ここから花祭りが始まる。この日は扇の舞と

猿田彦命の鬼の舞も奉納される。
(2) 瀧破い・高根まつり・辻固め
土曜日の午後に行う神事である。瀧を拝んで水を迎え、山の上に行って悪霊を追い払い、里に来て地上を祀る。その後、釜に火を入れ、祭場の準備をする。

(3) 宮迎え・神寄せ

花祭りは氏神様の祭礼である。花祭りの拍子に乗って静かに神社から神輿を迎えるのが宮迎えである、神座に氏神様を迎え、宮人と呼ばれる地区の人々が歌ぐらを歌い、神寄せをする。祭場に八百萬の神を迎える神事である。これで準備が整い、八百萬の神とともに、いよいよ舞が始まる。



須佐之男命



竜王鎮めの舞

(4) 湯立て・竜王鎮めの舞

舞は日曜に終わるが、祭りは月曜の午後まで続く。花太夫は、改めて神を迎え、湯を立てて場を清め、鎮めの舞を奉納する。これで花祭りがすべて終わることになる。

子どもと花祭り

子どもの舞は花祭りの主役とも言える。子どもの舞は成長とともに難易度が増し、大人たちの指導も厳しくなる。舞習いは6日間、毎夜行われる。幼少の頃から、太鼓の拍子にのり、体で覚えたものはいつまで経っても忘れることはない。昭和50年代までは男子のみの舞手であったが、少子化、過疎化により女子にも門戸を広げ、さらに今では他地区や地元出身者で都市部に住む子どもたちにも協力を

お願いしているのが現状である。

(3) 湯ばやし

中学生が舞う子どもの舞の集大成。子どもたちは、この舞を目指して稽古に励む。最後の舞、日曜の夕方、この舞で花祭りは最高潮を迎える。両手にはわらで作った束子を持ち、男らしく

(1) 花の舞

舞の基本でもある花の舞。5歳前後から小学校中学年までの子どもが舞う。小さい頃は15分程度、最後の本式は40分くらいの舞となる。夜



花の舞



湯ばやし

神の化身 鬼の舞

もう一つの主役は鬼である。鬼は神の化身とされ、3体の鬼にはそれぞれ名前がある。

(1) 猿田彦命(櫛鬼)

鬼のなかでも最も神々しいのが猿田彦命である。夜中と日曜の夕方、湯ばやしの前と2度登場する。夜中の猿田彦命は「庭入り」と言う。朝7時、舞庭を出発し、地区内の1軒1軒を訪れ、それぞれの家で舞奉納する。そして、舞庭に帰ってくるのが夜中のちようど花の舞の頃になる。夕方の舞は「宵の櫛」と呼ばれ、天孫降臨をし、宇豆女と問答をする場面もある。1時間以上及ぶ舞である。

(2) 須佐之男命(山鬼)

特に荒々しい舞が求められる須佐之男命。午前3時頃に「朝鬼」として、午前10時頃「大蛇退治」として登場する。八岐大蛇を退治し、草薙剣(天叢雲剣)を神前に捧げる舞をする。

(3) 大国主命(茂吉鬼)

前述の2体の鬼は鉞を持って舞うが、

この茂吉鬼は槌を持って舞う。舞の最後には槌で蜂の巣を払って、小銭を振る舞う。午後3時頃登場する。この舞はかつては宿主の舞だった。今は舞庭が公民館や専用の建物に作られているが、以前はそれぞれの民家が花宿となり、家の庭に舞庭が設営された。その宿主が舞うことになっていた。その後、花祭りを運営する典座と呼ばれる者の代表者が舞っていたが、時代の流れでその制度もなくなり、今は年齢順に舞うことになっている。なかには初めて花祭りを舞う人もおり、楽しい鬼の舞になることもある。

今年の花祭りは、東栄町全地区で開催を取りやめた。しかし、伝統の灯を絶やすことなく、花祭りを地区民の宝物として守っていききたい。

【奥三河のき山放送局】
第90回
東栄町中設楽花祭り



本法人は、三河の教育の充実・向上を図るために、小中学校の教育振興に寄与する教育研究団体に助成を行っている。

伝統の継承と次代の創造

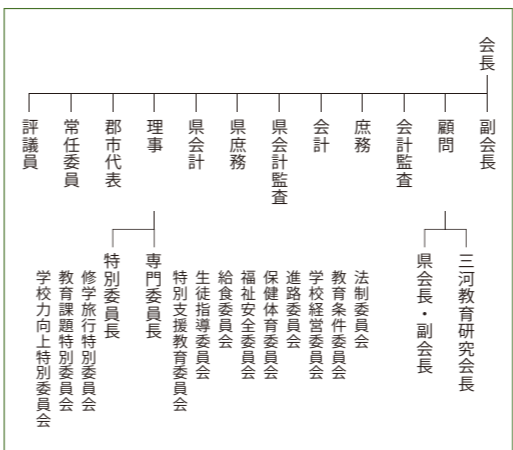
三河小中学校校長会の活動

三河小中学校校長会 天野 明 典
(豊田市立朝日丘中学校長)

三河小中学校校長会は、昭和24年10月の第1回創立総会以来、三河小中学校相互の連絡を密にし、教育の振興発展を図り、教育文化の向上に寄与することを目的として、様々な活動に取り組んでいる。ここではその一端を紹介する。

一 校長会の組織

本会は、三河地区に所在する小中学校の校長会をもって組織され、会を代表する会長1名と副会長4名、会長が委嘱する顧問をはじめ、左図のような構成になっている。



そして、本会には、9つの専門委員会と、必要に応じて設置される特別委員会があり、委員会に関する内規に示された様々な任務を遂行している。

二 校長会活動の実際

(一) 専門委員会

9つある専門委員会の活動は、本会の中核的な役割を果たしている。各委員会は、全ての郡市から出された1名ずつの委員で構成されており、三河全域の状況を把握した上での活動を可能にしている。併せて、それぞれの活動の成果を全ての郡市で共有できる体制となっている。

各地区の協力を得て実施した調査研究の結果や収集された情報等は、それぞれの地区・学校に還元され、教育環境の充実に生かされている。



役員・理事会、常任委員会の様子

(二) 学校力向上特別委員会

多岐にわたる教育諸問題に対しては、必要に応じて特別委員会を構成することにより、適時な対応を目指した活動ができるようにしている。

その1つである「学校力向上特別委員会」は、昭和57年に、行事の割愛・精選の在り方について調査研究を行うことを目的として設立された「行事割愛検討特別委員会」に始まる。

その後、平成11年に「学校経営特別委員会」と名称を変え、平成23年「学校力向上特別委員会」を研究主題とする「学校力向上特別委員会」となり、現在に至っている。

平成29年、これまでの研究や調査結果から、組織マネジメントに視点を当てた取組が今後ますます必要になってくること、併せて、マネジメント論や

リーダー論などを学ぶ機会が十分でないことなどが課題として浮かび上がってきた。そこで、学校組織マネジメントの手法を「つながり」という観点から再整理し、学校内外が一体感をもち、つながって教育活動を実践していくための方途を探りたいと考えた。そして、研究副主題を「『つながり』で創る学校経営を目指す各郡市の取組と課題」とし、4年計画の研究に着手した。

研究1年次は、「学校の共有ビジョンの形成と具現化」に視点を当て、意識調査を実施し、具体的な取組、課題をまとめた。これにより、各校長が各郡市校長会等で行われる情報交換をもとに、「実態把握→学校ビジョンの形成→関係者との共有→ビジョンの実現→検証と見直し」というサイクルで学校の共有ビジョンの具現化を図っていることが明らかになった。

2年次は、学校の共有ビジョンを実現するために必要な「協力体制と風土づくり」に視点を当て、教育活動の質を高めたり、教職員一人一人の力量向上を支えたりする各郡市の取組と課題について調査研究を進めた。

3年次は、「チーム・ネットワークづくり」に視点を当て、諸資源を効果的・効率的に活用した学習環境の整備や様々な関係者と協働・連携した各郡市の取組と課題についてまとめた。

研究の最終年にあたる本年度は、こ

これまでの調査研究で明らかになった取組を各郡市の学校経営の実際としてまとめていく予定である。

報告書には、各郡市における様々な実践例が掲載されており、教育環境を整えるうえで大いに参考になるものとなっている。



研究の成果をまとめた報告書

(三) 校長研修会

ア 講師招聘による研修

本会では、年に4回、講師を招聘しての研修会を実施している。喫緊の課題に関するものや、長期的な展望に立って考えていくものなど、内容は多岐に渡っている。研修会を通して、自らの使命を自覚し、学び続け、未来を見据えた確かな計画を立案し、信頼に応える力量を身に付けることができるよう努めている。

去る8月25年度日には、中部大学・国際ESD・SDGsセンターの古澤礼太准教授を講師にお迎えして研修会



講師招聘による校長研修会

を実施した。現代社会における様々な課題を、自らの問題として捉え、持続可能な社会づくりの担い手を育む教育の重要性や、そのための具体的な方策等についてお話いただいた。

イ 情報交換・情報共有

本会では、各種会議の機会を、貴重な情報交換・情報共有の場として有効活用している。各郡市、各学校で取り組まれている活動の様子を知ることが、それぞれの郡市、あるいは学校での活動を考える際の参考になる。これは、三河の全ての郡市から会員が集う本会の強みである。

新型コロナウイルス感染症への対応にあたっては、これまでに私たちが経験したことのない課題への対応を余儀



情報を交換し合う会員

なくされた。先行きが見えず、難しい対応を迫られたが、ここで共有した情報が地区や学校での対応を考える際の参考になったとの声を聞くことができた。

(四) 三河教育研究会並びに愛知教育文化振興会との連携

三河教育研究会は、広く深く研究できる場を求める現場の声に応え、昭和36年、三河教育の一層の発展のために、設立された団体である。

また、愛知教育文化振興会は、昭和32年、三河の教育文化の向上・発展に寄与することを願って設立されて以来、「学習資料の編集及び刊行」「教育情報誌の発行」「三河地域の教育研究団体・教職員等への助成」等を主な事業として、目的の達成に努めている。

本会は、こうした目的を同じくする団体と連携して、三河地域の教育環境の充実・発展に努めている。

とりわけ、刊行物の発刊にあたっては、三者の連携・協力は欠かせない。それぞれの刊行物には、現場の教師の手作りによる、子どもたちに合った教材を安価で提供したいという思いや、作成自体を研修の機会と捉え、教師の教科の専門性を高めることにつなげたなどの願いが込められている。そして、その収益による助成は、本会の活動はもとより、他の教育団体の運営や郡市の教育活動、個人研究の推進などに大いに役立てられている。

三 おわりに

これからの社会は、Society5.0の実現に向けて急激な変化を遂げるとともに、グローバル化も一層進展する。さらに、少子高齢化、人口減少社会の中で、労働環境も大きく変化するなどで、先行きが不透明な時代である。私たちは、このような現状を深く認識し、持続可能な社会と幸福な人生の創り手の育成に努めなければならない。

そのために、子どものことを一番に考える三河教育の伝統を継承しつつ、総力をあげて調査・研究活動や研修の充実に努めるとともに、学校教育のさらなる充実・発展に資するよう活動を進めていきたいと考えている。

「教材」をつつの「英語の学習」

岡崎市立六名小学校 教諭

安藤

翔太



今年度より始まった5・6年生の外国語科では、子どもたちが3・4年生の外国語活動で慣れ親しんできた英語を、「聞く」「話す」ことができるようになるだけでなく、文字として「読む」「書く」ことができるようになることを目指している。子どもたちが英語の「聞く」「話す」「読む」「書く」という四技能をどのように習得していったか、授業の中で丁寧に見取っていくことが大切である。動画や音声視聴し、何を聞き取り、理解することができたか。単語や表現を正しく使っており、相手に質問したり質問に答えたりすることができたか。アルファベットや英単語を、文字として読むことができたか。見本を見ながら4線の上に丁寧に書くことができたか。子どもたちが授業の中で培ってきた力を確かめ、評価するために、2つのことを行っている。

1つは、「パフォーマンスチェック」と題して担任やALTとマンツーマンで話す場を設け、单元の中で学習した単語や表現がどれほど身についているか、3つの観点「思考・判断・表現」「学びに向かう力・人間性」から子どもたちを評価している。

そして、もう1つはこの「英語の学習」を活用し、主に「聞く」「読む」「書く」力の定着具合を図る。「英語の学習」は、各Unitの教科書

の内容を基にして作られている。そのため、授業を通して子どもたちが单元の内容をきちんと習得したかを見取ることができると同時に、難易度も高くないため、子どもたちが「できた!」という達成感を味わいやすいものになっている。オールカラーでイラストや紙面が子どもたちに親しみやすいように工夫されているだけでなく、リスニングの紙面にはQRコードが載っている。ICT機器を使ってQRコードを読み込めば、自宅でもテストの音声は何度でも聞いて復習することができ、優れたものである。

ICT機器を使い、

「英語の学習」を使って理解を深める授業

タブレット端末を用いて「英語の学習」を活用し、一度解いた問題に繰り返し取り組ませることで、单元の復習や理解をさらに深める授業を行った。

教科書であるNew Horizon Elementaryや、教科書に付属しているPicture DictionaryにもQRコードがついており、「QRコードを使って家でも復習するといよいよ」と呼びかけてはいたものの、実際に取り組んでいる児童はごくわずかであった。そこで、自宅から児童にイヤホンを持参させ、タブレット端末を用いてQRコードを読み込む方法を教えた。いざ取り組ませると、QRコード

を読みこむ方法を知らない児童もいたため、そのやり方から指導することが大切であると感じた。英語の学習に記載されているQRコードを読み取り、音声が出てくると、「すごい!」と声を上げ、興奮気味に改めて問題に取り組み児童の姿が見られた。問題を解いた際には、限られた回数しか音声を聞くことはできなかった。そのため、ICT機器を使って間違えた問題や理解が足りないと思う問題を中心に、何度も繰り返し聞くように指導した。さらに、復習を通して気付いたことや学んだことを、ふせんに書き出し貼るようにアドバイスをした。すると、自分が何を聞き取れていなかったのか、何を間違えていたのかということに気付いたり、英語の音声に対する理解を深めたりすることができた、と振り返りに記述する児童が多かった。その後、家でもすすんで「英語の学習」を用いて学習した児童たちによると、「以前よりも英語を聞くことができるようになった」「日本語と英語の発音の違いがわかるようになった」という喜びの声が上がった。

「英語の学習」を、ただのペーパーテストに終わらせるのではなく、QRコードを利用して何度も音声に触れさせ、理解を深めるための「教材」として扱うことで、子どもたちの学びはより深くなるのではないかと感じた。今後も、子どもたちがより楽しんで英語を学んでいけるように、「英語の学習」を積極的に活用し、実践に励んでいきたい。



教室の窓辺

翼小学校の自慢

「翼トークタイム」

高浜市立翼小学校 教諭

水品

由唯香

本校では、道徳を中心とした心の教育の充実に努めています。「翼トークタイム」は、朝の10分間、子どもがフランクに意見を出し合い「話す・聞く」力を養うことをねらいとした取組です。二者択一型や問題解決型など、担任が学年や学級の実態に合わせてテーマを示して話し合います。

昨年度担任した3年生の学級は、自分の意見を表すことに躊躇する子が多く、いかに発言しやすい環境をつくるか腐心してきました。そのため、同じ立場の仲間が多くなりやすい二者択一型のテーマが奏功すると考え、取り入れました。例えば、「海と山、行くならどっち?海の人水色、山の人ピンクを出しましょう」という具合に、2色のカードを個人で持つようにし、話し合いの最初に立場を表明するようにしました。

「さあ、翼トークタイムの時間だよ」、そう言うとお道具箱からカードを取り出すのがお決まりの光景となりました。二者択一型は、立場は2つでも理由は十人十色。友達に自分の考えを受け入れられる経験を積みながら、道徳の授業実践を進めていったある日、ある子が顔を真っ赤にして

うつぶんでいます。けれど、その手はぴんと挙がっています。これまで、どんな手だてをとっても意見を言う姿につながらなかった子でした。

「○○さんと同じで」それは、友達の意見を聞き、自分の考えと比較している発言でした。子どもたちは、その子が手を挙げると、はっとした顔をしました。しっかりとその子を見つめる目、うなずく姿の中に、どのような発言でも、がんばりを受け入れようとする雰囲気がありました。

この1年、「どんな意見も大切で、みんなの学習を豊かにすること」「たとえ正解と違って、全ての意見が、みんなでたどり着いた考えの土台となっていること」を伝えられるように努力してきました。子どもが自分で言葉を紡いでいく力をつけるために、「翼トークタイム」を有効な時間にしたと取り組んできました。そして、まさにこのとき、その思いが子どもの心に届いたのだというのを、その子の姿から実感しました。

今年度は、1年生を担当しています。何事も初めての1年生は、毎日、やってみようという気持ちと、できるかなというドキドキした気持ちとの狭間で戦っています。発言もその1つ。あるとき、躊躇する友達を励ましている一幕がありました。

「言ってみると、もっと言おうかなってなるよ」「言っちゃえばすっきり。だから、がんばって」それでもドキドキが勝るこの子に、あと一押しがんばろうとしている子どもの背中を押すには、これしかありません。

開校19年目の本校学区は、地縁の結びつきが少ない地域で、外国籍児童も多く、さまざまな環境や文化で育った子どもが生活しています。そこで、心の教育を柱に、「この子の輝き」をキーワードとして、一人一人のよさを生かして伸ばす教育を推進しています。

そして、校歌にある、「自分の輝く翼を見つ、未来にはばたく子」の育成を目指しています。子どもが、お互いの「輝き」を感じとり、受け入れ、認め合う環境や人間関係づくりに全教職員で努めています。

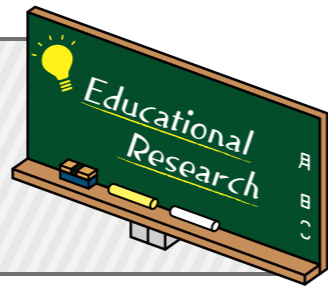
(校長 村越 茂樹)



翼トークタイムの様子

令和2年度 個人研究助成

本法人では、先生方の研究を支援しています。本年度は、1年次研究、2年次研究、3年次研究を以下の先生方に助成しました。3年次研究を終わられて、研究成果論文を提出された方については、最終審査会を経て、来年2月に優秀論文の表彰式を行います。



〈1年次〉(220名)

研究領域	郡市	学校名	氏名
国語	岡崎	根石小	福永えりな
	岡崎	羽根小	須藤 静香
	岡崎	井田小	田中 夏紀
	刈谷	平成小	杉本 真健
	豊田	中山小	酒井 博康
	安城	桜井小	小笠原 萌
	安城	桜井小	近藤 梨紗
	安城	祥南小	岩瀬 麻美
	安城	祥南小	山崎 麻佑
	安城	里町小	大迫乃里子
	安城	桜町小	太田 洋祐
	安城	新田小	山口 慧大
	安城	新田小	藤井 麻未
	西尾	中畑小	根本 円佳
	西尾	福地南部小	中島 年隆
	西尾	福地南部小	若枝 真里
	西尾	福地北部小	宮川 周
	みよし	黒笹小	小穴 光俊
	幸田	幸田小	並川さやか
	幸田	深溝小	近藤 正隆
	豊川	八南小	鈴木 幹奈
	蒲郡	蒲郡南部小	木村知江美
	蒲郡	西浦小	山田 りか
	蒲郡	形原北小	近藤 祐輔
	蒲郡	竹島小	金子 加歩
	新城	庭野小	石河ゆかり
	岡崎	矢作北中	浅井美己子
	豊田	崇化館中	三浦 あい
	安城	安城南中	金子 美鈴
	西尾	吉良中	長谷 守紘
	高浜	高浜中	青木 香予
	みよし	南中	今村奈津希
	幸田	北部中	小瀧 喜大
	蒲郡	中部中	龜岡 晃希
	田原	田原中	中島 昂大
	社会	碧南	棚尾小
碧南		西端小	池部 弘樹
みよし		緑丘小	森田幸一郎
幸田		荻谷小	山本 晃寛
豊橋		新川小	中島明日香
豊川		八南小	岡田 直俊
蒲郡		竹島小	近田 卓也
蒲郡		竹島小	藤城 大介
新城		千郷小	原田 悟志
岡崎		翔南中	栗田 一步

研究領域	郡市	学校名	氏名
社会	碧南	新川中	小澤 貴彦
	豊田	崇化館中	深谷 雄偉
	豊田	前林中	木谷 賢二
	安城	明祥中	川角 幸久
	豊橋	石巻中	荻野 達成
	蒲郡	中部中	山本 佳範
	蒲郡	中部中	大場 康宏
	田原	田原中	竹内 啓祐
	岡崎	男川小	堀江 佳生
	岡崎	羽根小	野村 祥太
算数	岡崎	六ツ美西部小	鈴木沙也加
	刈谷	衣浦小	吉村 睦
	刈谷	富士松北小	大浦 祐司
	安城	丈山小	西山 実莉
	安城	丈山小	田中友紀子
	安城	里町小	草野さやか
	西尾	福地北部小	森 守
	西尾	東幡豆小	大橋 昇悟
	知立	知立西小	天野 利亮
	幸田	坂崎小	佐伯 優斗
数学	幸田	中央小	中川 真輔
	豊川	中部小	近藤 雅子
	豊川	中部小	白井 涼香
	蒲郡	蒲郡南部小	山崎 雄介
	蒲郡	塩津小	鳥居 高秋
	岡崎	葵中	岩野 慎也
	刈谷	雁が音中	菊地 惇也
	豊田	足助中	宇野 貴哉
	安城	東山中	岩武 宏一
	西尾	寺津中	嶋崎 健留
理科	豊橋	南部中	前原 静
	蒲郡	中部中	原田 樹一
	岡崎	広幡小	山北 早彩
	岡崎	小豆坂小	永田 祥晃
	刈谷	双葉小	水野 泰杜
	豊田	中金小	酒井 優
	西尾	中畑小	神谷有衣子
	知立	猿渡小	中島 一志
	高浜	港小	南 かな
	豊橋	鷹丘小	熊谷 一規

特色ある教育活動

「郡市教育・研究助成」を生かした取り組み紹介

「自分の思いを語る生徒」を目指して

豊田市立猿投台中学校

校長 加藤 康人

猿投台中学校は、東に矢作川が流れ、北には猿投山を臨む高台に位置しています。生徒数は435人、「純真・敬愛・希望」の校訓のもと、「自ら輝き、ともに輝き合う台中生」を合い言葉に主体的な活動や行事に力を入れています。

豊田市教育委員会の研究指定を受け、道徳研究推進校として、主題「互いに認め合い、仲間とともに主体的に行動できる台中生の育成ーコミュニケーション力を通して」に取り組みました。研究内容を幾つか紹介します。

一 オリエンテーション授業とマイベストタイム

一定期間の道徳学習における自分の成長を振り返らせる目的で学期のはじめに「オリエンテーション授業」を、終わりに「マイベストタイム」を設定しました。オリエンテーション授業では、道徳は、生き方を深める場であり、自分や周囲の

よさに気付く時間であること。何を語ってもよく、相手にわかりやすく伝えること。共感的に聴くこと。違和感や異質感到に気付くことなどの点を押さえました。

マイベストタイムでは、学期で一番心に残った授業を思い出させ、何に気付き、その後どんな影響を自分に与えているか振り返らせました。これは、生徒の評価にも活用しました。

二 話題づくり「考えるコーナー」の設置

授業以外に生徒が主体的に考え、語り合う機会を増やす目的で「考えるコーナー」を設けました。毎週月曜日、身のまわりから世界の話題、意見が対立する話題など、様々な視点から教師が考えた話題が全学級に与えられます。それを各教室と昇降口に掲示します。シールや色塗りで意思表示をしたり、掲示板の用紙に自由記述したり、仲間と話題にする生徒も増えていきます。学級では、STにグループで語り合う時間を設定し、自分の考えを楽しく仲間に表示できる場を作っています。



三 家庭で道徳「徳119の日」
家庭で生き方を考える機会を作るため、毎月19日を「とく」と振って、「徳の日」と設定しました。7月は「あいさつ」9月は「気配り」と親子で語り合うテーマを与えました。また、「考えるシート」(授業の振り返りシート)で道徳の学習状況を家庭にも伝えていきます。あいさつのテーマに対し、「何故、どの国にも同じように挨拶の言葉があるのかを考えてみるよい機会となりました」等、多くの保護者から、ご意見や感想をいただきました。今後も、親子コミュニケーションの場として活用していきます。

進歩したことは、教師が、生徒の成長を楽しみに授業に向かう意識が高まったこと、生徒の考えを大切に授業を進めるようになったこと等、道徳が生徒にとって本当に貴重な時間であることを再認識したことです。生徒は、制限のある中でも、仲間を大切に、学校生活や縮小された行事に主体的に取り組む姿があります。道徳学習が、生活に生かされていることが、大きな成果だと感じています。



研究領域	郡 市	学校名	氏 名
特別支援教育	安城	桜井小	谷澤 幸紀
	安城	祥南小	太田真理子
	安城	里町小	二村 愛実
	豊川	千両小	西尾 友恵
	知立	知立中	熊倉 武司
総合的な学習	岡崎	羽根小	三浦 理沙
	岡崎	六ツ美西部小	井上 義規
	豊田	根川小	柴田 知咲
	豊田	中山小	津田 龍一
	豊田	小原中部小	林 桂一郎
	豊田	則定小	加藤 大智
	安城	二本木小	鶴田 晴紀

研究領域	郡 市	学校名	氏 名
総合的な学習	西尾	一色中部小	鈴木 菜月
情報教育	岡崎	愛宕小	米澤 和志
特別活動	幸田	豊坂小	太田 宗平
	豊橋	吉田方小	山本 崇代
	豊橋	鷹丘小	石川 翔大
	豊田	竜神中	鈴木 一輝
	みよし	北中	大塚 喬斗
	豊橋	石巻中	鳥井 省伍
	豊田	童子山小	緒方 美和
その他	北設楽	津具小	前田 茜
	岡崎	矢作北中	川口 美佳
	豊田	竜神中	中尾美由紀

● 1年次申請者に向けて ●

審査委員会副委員長

1 1年次申請書を読んで

本年度の個人研究助成の1年次申請は、277名の応募があり、その中から220名を助成対象者として選考しました。コロナウイルス感染拡大で、さまざまな制限が強いられる中ではありますが、自らの力量向上のために、研究実践に取り組もうとする先生方の熱意に敬意を表したいと思います。とりわけ、経験の浅い、若い先生方が多く応募されていることに、これからの三河の教育を担う人材として頼もしく感じました。

実践の内容について、新学習指導要領の趣旨を踏まえ、「科学的な見方や考え方を働かせること」「対話を通して学びを深めること」「主体的な追究や問題解決を図ること」を目指した研究実践等、今日的な課題に取り組もうとする実践が多く、その成果を期待したいところであります。

その一方、子どもの実態が十分に把握されていなかったり、手だてが具体性に欠けていたりするものもありました。目指す子どもの姿と仮説や手だてとのつながりを分かりやすくし、読み取りやすい論述の工夫が必要となります。

2 2年次申請に向けての実践の進め方

2年次申請に向けて、先に述べた改善点に加え、次の点に留意してください。

○主題設定の理由から目指す子ども像までの筋道を分かりやすいものにするためにも、学級の子どものよ点や不十分な点を明らかにする実態調査の内容を吟味する必要があります。調査も事前、事中、事後と繰り返すことにより、子どもの変容を捉えることができる。



<2年次> (50名)

研究領域	郡 市	学校名	氏 名	研 究 主 題
国語	豊田	根川小	光山 寛人	対話を楽しむ子の育成
	豊田	朝日小	首藤 真里	自らの読みを深め、自他のよさを認め合う能力の育成
	西尾	一色西部小	中濱 初美	叙述に着目して友達とかかわり合いながら読みを深める子の育成
	知立	知立小	来川 知裕	豊かな想像力を持ち、思いの伝わる表現を探究する子の育成
	幸田	荻谷小	山本 有香	相手を意識し、発表を工夫することのできる子どもの育成
	蒲郡	塩津小	水島 礼奈	ともに学び、ともに生きる子の育成
	蒲郡	形原北小	久保亜沙美	主体的に学び、仲間と関わる楽しさを感じる子
	北設楽	豊根小	小川 華歩	文章を読んで登場人物の行動や場面の様子を想像し、物語全体の内容を理解する児童の育成
	岡崎	額田中	三井 靖子	言葉や表現にこだわり、読みを深める生徒の育成
	幸田	南部中	永田 光輝	相手意識や目的意識を大切にしながら、主体的に「書く活動」に取り組み、文章を書く楽しさを味わうことのできる生徒の育成
社会	岡崎	小豆坂小	矢澤 舞	主体的・協働的な学びを通して、自分の考えを深められる子供の育成
	刈谷	亀城小	三浦 悠	これまでに学んだことから根拠のある考えをもち、友達とかかわることで考えを深められる子どもの育成
	岡崎	河合中	辻村 堅吾	資料を活用し、調べたことを根拠に、話し合い活動を通じて、自分の考えを構築できる生徒の育成
	西尾	平坂中	近藤 憲秀	仲間とかかわり合う中で、資料を活用して考えを構築できる生徒の育成
	田原	田原中	福井 啓介	仲間とかかわりながら、よりよい社会づくりへの参画をめざす生徒の育成
算数	岡崎	梅園小	江口 圭介	数学的に考える活動を通して多面的に物事を捉える力を育む授業実践
	豊橋	二川南小	大竹 友浩	数学的活動を通して自分の考えをもち、すすんで表現しようとする子の育成

研究領域	郡 市	学校名	氏 名
理科	西尾	鶴城中	古澤 知幸
	幸田	幸田中	山本 早織
	幸田	南部中	宇津野裕二
	豊橋	石巻中	山本 伸樹
	豊川	音羽中	今川 政樹
	新城	千郷中	岡山 貴達
	新城	千郷中	酒向 和希
	岡崎	羽根小	出 真菜香
	安城	三河安城小	森元 創世
	田原	高松小	川口久美子
音楽	北設楽	東栄小	金田 伯代
	北設楽	設楽中	藤井 優香
	岡崎	男川小	鈴木絵梨奈
	岡崎	矢作北中	中根 勅子
美術	豊田	竜神中	岡本真由美
	豊田	井郷中	柴田 悠幾
	幸田	幸田中	神田 朗佳
	北設楽	東栄中	湯浅 絢貴
家庭	豊田	美山小	佐藤 歩美
	豊田	矢並小	石井 美妃
	みよし	北部小	岩本 恵
技術・家庭	岡崎	葵中	蜂須賀文隆
	岡崎	矢作北中	福本 秀裕
	刈谷	雁が音中	山本 昂平
	豊田	竜神中	清水 悠生
	豊田	足助中	酒井 駿
	安城	安城北中	今泉亜朱加
	西尾	西尾中	小原 萌子
	西尾	鶴城中	藤濤 阿弥
	岡崎	美合小	落合 湧也
	岡崎	井田小	伊奈 亨
体育	岡崎	愛宕小	中崎 光祐
	豊田	根川小	澤田 一平
	豊田	御作小	東 優希
	安城	安城北小	成瀬 瑠美
	安城	安城北小	長谷部美沙
	安城	祥南小	中野 僚哉
	安城	二本木小	水越 智美
	安城	桜林小	伊藤 健杜
	西尾	中畑小	遠藤 廣
	西尾	一色中部小	長谷 裕啓
保健体育	北設楽	田口小	稲田 里沙
	岡崎	葵中	後藤 麻由
	碧南	新川中	小栗 和也
	豊田	竜神中	近藤 貴嗣
	豊田	小原中	杉山 裕太
	安城	桜井中	深谷 俊文
	安城	東山中	鶴井 美里
	安城	安祥中	岡田 充弘
	西尾	鶴城中	青山 七莉
	西尾	鶴城中	中根 和紀
特別支援教育	豊橋	石巻中	近藤 勲
	田原	赤羽根中	中嶋 啓貴

研究領域	郡 市	学校名	氏 名
外国語活動・外国語	刈谷	亀城小	大脇 知実
	豊田	豊松小	高野 浩太
	みよし	天王小	関川 麻美
	田原	中山小	川口 潤子
	岡崎	葵中	橙 里奈
外国語	岡崎	東海中	天野 圭祐
	岡崎	額田中	加藤 星也
	碧南	新川中	武政 篤
	刈谷	雁が音中	中島 律也
	豊田	猿投台中	恩藤まどか
	安城	安城北中	有坂 有左
	西尾	鶴城中	山里 知弘
	高浜	高浜中	西 恭平
	幸田	北部中	本田 剛士
	北設楽	東栄中	本村 健
生活	岡崎	羽根小	田中 有紗
	碧南	西端小	鈴木謙太郎
	刈谷	亀城小	坪井 喬未
	安城	安城西部小	大野理恵子
	安城	明和小	松川侑里香
	西尾	福地北部小	加藤 夕貴
	西尾	室場小	大溪 頼孝
	西尾	一色中部小	市川 結理
	豊川	国府小	内藤亜梨紗
	田原	福江小	河合 理沙
道徳	岡崎	竜美丘小	布施 将太
	刈谷	双葉小	秋元 志乃
	豊田	敷島小	松井 禎子
	安城	安城南小	安丸 拡美
	安城	里町小	鈴木 朗子
	西尾	三和小	東海 彩帆
	幸田	幸田小	井上 正興
	新城	黄柳川小	瀬戸菜々子
	田原	福江小	川合 三奈
	豊田	保見中	坂本 治彦
学校保健	豊田	若園中	山下 真輝
	西尾	吉良中	浅井 卓也
	知立	知立中	山崎 貴洋
	豊川	音羽中	平井百合絵
	豊田	矢並小	小澤 菜摘
	豊田	九久平小	山田佐矢加
	安城	安城西部小	清水 咲花
	豊川	牛久保小	山田 奈々
	蒲郡	西浦小	市川 佳奈
	蒲郡	竹島小	水谷 咲
特別支援教育	新城	黄柳川小	浅野 夏海
	西尾	鶴城中	齋藤 江里
	岡崎	美合小	酒井久美子
	岡崎	大門小	安藤 仁史
	岡崎	大門小	近藤 朋美
	岡崎	六ツ美西部小	井上 清美
	刈谷	小高原小	河合 麻未
	刈谷	双葉小	板倉 央宜

〈3年次〉(10名)

研究領域	郡 市	学校名	氏 名	研 究 主 題
国語	安城	桜林小	石川 美佳	友達と考えを聴き合い、自分の考えを深めようとする子をめざして
社会	西尾	西尾中	真鍋 智嗣	学びの実社会への有用性を考える生徒の育成
算数	刈谷	東刈谷小	神谷 貴公	学級の全体の理解度の向上を目指す学習言語の構築
理科	豊田	五ヶ丘東小	永田 翔一	問題意識を持続しながら主体的に活動し、考えを深め合える子どもの育成
	幸田	北部中	犬塚 創太	身近な素材をもとに「主体的・対話的で深い学び」を実現できる子の育成
体育	田原	伊良湖岬小	糟谷 賢太	運動有能感を高め、主体的に深い学びに向かう体育学習
道徳	豊田	青木小	川合 恭子	自己を見つめ、よりよい生き方を考える子の育成
	豊川	御津南部小	白岩 和樹	物事を広い視野で考え、主体的な判断の下に行動し、よりよい生き方を追求できる子の育成
学校保健	豊田	松平中	深田 暖生	自分の生活を見直し、健康な生活を送ることができる子の育成
その他	岡崎	福岡中	成瀬 拓磨	不登校児童生徒の自立を目指した支援の在り方と「あくまでも」学校復帰に向けた取組の有効的手段の探究

Research result report

研究成果論文提出者の紹介 (平成29～令和元年度の研究)

平成29年度を研究1年次として、令和元年度までの3年間、着実に研究を推進され、成果を見事に論文として提出された10名の先生方を紹介します。

国 語

岡崎・矢作中 **深谷 昌弘**

楽しく説明文を読み深める国語科の学習

算 数

安城・丈山小 **石川 昂季**

共に学び合い、課題解決に粘り強く取り組む子を育む算数科学習

国 語

みよし・三好特別支援 **佐藤 京子**

授業での学びを生かし、自分自身の生き方を追究しようとする児童の育成

算 数

西尾・花ノ木小 **稲垣 千秋**

図形の性質を見いだしたり、説明したりする活動を通じ、友達と関わりながら学び合いを深めることができる子をめざして

国 語

北設楽・名倉小 **金田千賀子**

進んで言語活動に親しみ、伝え合う力を高めていく子どもの育成

算 数

蒲郡・蒲郡南部小 **杉本 芳依**

自ら追究し続ける子の育成

社 会

豊橋・多米小 **太田 篤行**

日本の未来を考えながら共生の必要性について気づくことができる子どもの育成

特別支援教育

安城・安城東部小 **熊倉 三恵**

人との関わりを楽しみながら、主体的に活動する児童の育成

算 数

岡崎・梅園小 **小山絵美梨**

数学的活動を通して主体的に考える力を育てる授業

総合的な学習

岡崎・竜海中 **武井 翔**

主体的に探究し、グローバルな視野をもって、共に学びを深め合う生徒の育成

研究領域	郡 市	学校名	氏 名	研 究 主 題
数学	豊田	美里中	白井 翔	数学的活動を通して、普段の生活に比例の考えを活用するとともに、楽しんで個の計算力を高めようとする生徒の育成
	豊橋	青陵中	長坂 晃裕	「主体的・対話的で深い学び」を実現する数学の授業
	蒲郡	蒲郡中	保浦 哲晴	自らの問いを追究し続ける生徒を育成する数学授業
理科	岡崎	大樹寺小	渡邊 智文	小学校理科「思考力・表現力・判断力」の育成を目指した授業作り
	豊田	飯野小	冨田 貴博	仲間と話し合いながら主体的に問題を追究できる子の育成
	新城	鳳来東小	鈴木美穂子	科学的根拠をもとに自分の考えを言える子の育成
	豊田	朝日丘中	坂本 晃伸	主体的・対話的に追究しながら、理科を学ぶ意義・有用性を実感することのできる生徒の育成
音楽	安城	桜林小	伊吹 拓実	生活の中にある音や音楽に耳を傾け、仲間と関わりながら音楽表現を楽しむ子の育成
図画工作	豊田	伊保小	早川愛理沙	自信をもって自分の思いを表現する子の育成
技術・家庭	岡崎	甲山中	河澄 崇	意欲的にプログラミング学習に取り組める授業の工夫
体育	岡崎	竜美丘小	加藤 雅也	自身の成果と課題をとらえ、仲間と関わり合う中で主体的に運動に取り組む児童の育成
	岡崎	城南小	松崎 俊介	自他の動きをよく分析し、技能と戦術に関する考えを深めることのできる児童の育成
	田原	泉小	石川 雄一	お互いの立場を尊重し、だれもがのめり込む体育の授業を目指して
保健体育	岡崎	矢作中	内田 貴博	仲間とともに課題を見つけ解決しながら、学びを深めていく体育学習
	岡崎	竜南中	松本 良太	保健体育科の見方・考え方を働かせた深い学びの構築
	岡崎	翔南中	井土民記臣	自己の課題に気づき、主体的・対話的に課題を解決することで、技能を高める体育学習
外国語活動・外国語	豊橋	牟呂小	石黒 都	世界に興味をもち、すすんで自分の思いを発信できる児童の育成
外国語	刈谷	刈谷東中	神谷 健人	英語で表現することに自信をもち、英語で伝えることの楽しさを実感できる生徒の育成
	豊田	益富中	水谷 陽子	自分の経験や考えを英語で表現することができる生徒の育成
生活	刈谷	東刈谷小	橋本 幹子	学びの深まりを感じ、自ら次の学びを拓く子
	安城	安城西部小	吉満 優香	生き生きと学び合う子の育成
道徳	碧南	日進小	永田めぐみ	自己肯定感を高め、心豊かな子どもの育成をめざして
	知立	来迎寺小	竹田 香織	物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方について思考を深めていく子の育成
	岡崎	額田中	田中友二郎	協働的な学びの中で自己を見つめ、よりよい生き方を目指すことのできる生徒の育成
学校保健	安城	明和小	加藤 佑果	栄養バランスを考えて朝食を毎日食べる児童の育成
	安城	祥南小	小松 千恵	メディア利用習慣を見直し、質のよい睡眠がとれる児童の育成
特別支援教育	安城	二本木小	神谷 真一	主体的に学び、生活力を高められる子の育成
総合的な学習	西尾	一色西部小	野中 朋恵	協働的に探究する中で、身近な人のために自ら動き出す子の育成
情報教育	田原	田原東部小	寺田 操	課題を楽しみながら追究し、地域の人の力になろうと動き出す子の育成
	岡崎	竜南中	中山美奈子	ICTを活用し、生徒が自ら見方・考え方を働かせて主体的・対話的に学び合い、音楽を味わい楽しむ授業
特別活動	豊田	道慈小	鈴木 詩織	音楽に対する感性を高めて、全校合唱の練習に主体的に取り組む子どもたちの育成
	岡崎	葵中	矢沢 敬介	学校教育における生徒の自主性・社会性の伸長
その他 (へき地・小規模校)	豊田	足助小	清水 洗希	未来に向けてチャレンジ!小規模校の特性を生かした活動を通して、自ら考え、ふるさとの自然や歴史・伝統を守り育てていこうとする子どもの育成

● 2年次申請者に向けて ●

審査委員会副委員長

1 2年次申請書を読んで

1年次の220名の助成対象者に対し、2年次の助成対象者を50名に絞りました。どの申請書も、1年次の取組の成果と課題を踏まえ、目の前の子どもたちのために実践し、研究を進めようとする先生方の真摯な姿勢をうかがうことができました。また、新学習指導要領を念頭に置き、「主体的・対話的で深い学び」を追究していくような主題が設定されているものが多くありました。

今後の課題として、何点かを記します。
○目指す子どもの姿が明らかになっているため、的確な検証のもと、分析されている。個の変容とともに、全体の変容についても数値等による裏付けがあるとよい。
○論述を裏付ける資料を効果的に用いると、より説得力が

増す。また、読み手を意識した資料の配置を工夫することは、訴える力にも大きく影響する。
○子どもたちの学びの実態から、随時、指導計画を見直したり、単元構想を再構築したりする必要がある。

2 3年次申請に向けての実践の進め方

本年度の3年次の助成対象者は10名でした。3年次申請に向けて、いっそう優れた「研究」となるよう、先に述べた改善点に加え、次の点に留意してください。
○主題・仮説・手だてに一貫性があると、説得力のある論述となる。どの教科の実践にでもあてはまるような仮説や手だてではなく、何を求めて研究に取り組んでいるのかが分かるような文章表現及び構成を心がけたい。



令和2年度 団体研究助成

今年度は、審査委員会において次の5団体にそれぞれ助成が決定されました。

- ・三河小中学校長会
- ・三河教育研究会
- ・三河教頭会
- ・愛知県へき地教育研究協議会
- ・生活・障害児教育研究協議会

本誌では今回、三河小中学校長会の活動の特集しました。



文振のICT化

GIGAスクール構想の前倒しにより小中学校の児童生徒へのタブレット端末導入が急速に進んでいます。現場の変化に対応すべく文化振興会においてもICT導入を精力的に進めています。

- ・ICT担当書記の配置
- ・Wi-Fi (全館対応) 整備
- ・Web会議システムの導入
- ・刊行物へのICT導入推進
- ・ICT研修会の実施
- ・タブレット端末の導入 (1人1台)



コンクール関係

みかわ彩発見絵画コンクール (秋・冬の部)

応募期間 令和2年12月21日(月)~令和3年1月13日(木)

かきぞめコンクール

応募期間 令和3年1月4日(月)~1月8日(金)

作品展 (絵画・かきぞめ同時開催)

展示場所 三河教育会館

展示日時 令和3年2月5日(金)・2月6日(土)

午前9時30分~午後3時30分

優秀作品表彰式/令和3年2月7日(日)



使用報告・刊行物注文締切

◇使用報告/冬休み日誌、かきぞめ手本、硬筆用紙、賞状
令和2年12月8日(火)~10日(木)

◇令和3年度版刊行物第1期当初注文/
令和3年1月7日(木)~14日(木)

□刊行物モニター研究調査報告締切/
令和2年11月27日(金)

□教育図書出版助成申請締切/
令和2年12月7日(月)

□郡市教育・研究、学校教育ボランティア助成等実施
報告締切/令和3年2月26日(金)

令和3年度 大改訂

教科書準拠

英語演習

現場の先生方の声を生かして
長文や英作文問題を増やしました!

基本問題から応用問題まで
繰り返しの学習で
さらに力をつけられます!



- A4判/Unitテスト(両面刷り)
解答(両面2色刷り)
リスニングテスト(片面刷り)
CD添付
- 頒 価/295円 (税込)

高校入試問題を
想定した
長文問題を充実!

分かりやすい
解説付き!

収録内容を全面リニューアル!
リスニングCD付き!

Unitテストに解答(朱書き)とていねいな解説で、
生徒の自主学習をサポートします。



◆「教育と文化」123号に誤りがありましたので、お詫びし訂正いたします。2ページ1段目14行目、日高先生のお名前を「昌平」にご訂正ください。

